

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPOINT
2024.2.VOL.52

contents

極 社会貢献
Social contribution

人 時の人
People in the news

技 研究
Current topics in research

和 お知らせ
Information

医学部創立80周年記念式典を開催



2023年10月15日(日)、医学部創立80周年を記念した式典及び記念講演を開催いたしました。1943年設置の名古屋市立女子高等医学専門学校を源流とし、設立以来、5,200名を超える卒業生を社会へと送り出し、地域の健康・福祉体制の向上、地域医療の水準を高めるとともに先進的な医療の発展に貢献してきました。近年では、2021年に東部医療センター及び西部医療センター、2023年にみどり市民病院及びみらい光生病院が医学部附属病院となり、名古屋市立

大学病院とあわせて5つの病院による医学部附属病院群が誕生するなど、地域を支える中核的医療機関としての機能を更に強化しております。

創立80周年という節目を迎え、これまで伴走いただいたご関係・ご支援者の皆様に対し感謝と敬意を表するとともに、今後、本医学部が皆様とともに歩む明るい未来の実現をめざし記念式典を開催いたしました。

記念式典では、名古屋市長、愛知県知事はじめ多くの来賓の方より祝辞を賜り、中日新聞社代表取締役社長大島 宇一郎 氏による記念講演を開催いたしました。

文責：医療人育成課

“瑞医の由来”

『瑞医(ずいい)』という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPOINT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出発し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

医学部・看護学部の統合及びリハビリテーション学専攻の設置

2025年4月より、医学教育と看護学教育の連携をこれまで以上に強化するため、医学部と看護学部の統合を行い、医学部内に保健医療学科看護学専攻を設置いたします。

併せて同学科内に、理学療法士と作業療法士を養成するリハビリテーション学専攻を新たに設置し、医学部附属みらい光生病院に併設するメインキャンパスを開設いたします。

リハビリテーション学専攻の特色として、市大病院群のスケールメリットと特徴を生かした臨床実習による地域の医療福祉に貢献できるリーダーとなる人材の育成、

医学・薬学・看護学・データサイエンス学の連携による科学性と幅広い知識を有する医療専門職の育成、サイボーグ型自立動作支援ロボットやVRなどを使った特徴ある実習の提供による先端リハビリテーション技術を駆使できる人材の育成、研究を重視した教育プログラムによる大学院進学や研究員としての企業への就職などリハビリテーション分野における将来の研究者の育成を行います。

医学部内に医学・看護学・リハビリテーション学を集約し、多職種連携を更に強化することにより、質の高い医療人を養成します。

文責：医療人育成課

再編後の医学部案(カッコ内は定員)

学科	専攻
医学科(97)	
保健医療学科 (200)	看護学専攻(120)
	リハビリテーション学専攻
	理学療法学(40) 作業療法学(40)

医学研究科における診療看護師コースの設置

令和6年4月より医学研究科に診療看護師コースを設置いたします。

診療看護師を養成する大学院としては全国で14番目となり、これまでは看護学を専攻する大学院で設置されていたのに対し、本学では全国で初となる医学を専攻する医学研究科に設置いたします。

診療看護師とは、臨床での5年以上の看護実践を基盤として、大学院修士課程で医師の視点での学びを深めることで、診察、特定行為や直接指示による医療的処置を実施できるようになります。対象とする個々の患者の状態を包括的かつ的確に評価し、医師や他の医療従事者、介護従事者等と連携・協働して、絶対的医行為を除く診療を、自律してタイムリーに提供し、患者及び家族のQOLの向上に貢献できる看護師です。

診療看護師に期待される能力には、「熟練した看護実践能力」「看護管理能力」といった看護学教育を基盤としたものに加えて、「包括的な健康アセスメント能力」「医療的処置マネジメント」「病態の理解」といった医学教育によるものがあり、本コースにおいては、医学分野における教育・研究を強化し、医学研究科、看護学研究科及び5つの附属病院が一体となって、より質の高い診療看護師を養成いたします。

市大病院の救急災害医療センターをはじめ、附属病院群の救急・集中治療・手術部門などに診療看護師を配置することにより、タイムリーな患者対応などによる医療の質の向上、タスクシフト/シェアによる医師の働き方改革などへの貢献が期待されるため、既に資格を有している診療看護師の採用に加え、本学での養成も積極的に推進してまいります。

文責：医療人育成課

01 社会貢献

Social contribution

日本経済新聞「大学の地域貢献度調査」名古屋市立大学が2回連続全国1位

2023年11月6日(月)発行の『日経グローバル』にて、「大学の地域貢献度に関する全国調査2023」の結果が発表され、総合ランキングにおいて全国トップとなり、2021年の調査に続き2連覇を果たしました。

本調査は、全国765校の国公私立大学を対象に実施され、2022年度の実績が評価されたものです。調査内容は、地域貢献のための組織や制度面の取り組みをみる「大学の組織・制度」、学生の地域への就職や住民向け講座開催などの実績をみる「学生・住民、教育制度・社会人教育」、企業、自治体との連携実績などをみる「企業・行政」、SDGsや国際化の取り組みに関する「SDGs・グローバル」の4分野から構成されています。

本学での社会貢献活動の例として、名古屋市と連携したシンポジウムや専門的な知識をわかりやすく解説する市民公開講座の開催、社会人や専門職人材に対する学びなおしの機会の提供、地域と連携して「地域医療」に強い関心を持つ人材の育成、高度急性期から慢性期までの医療の提供など多岐にわたる活動を行っております。

地域貢献度ランキング全国1位という結果は、日頃よりご支援いただいている地域の皆さまと一緒に達成したものです。この場を借りて感謝申し上げますとともに、今後もより一層のご協力の程よろしく願いいたします。



年度	2012	2013	2014	2015	2017	2019	2021	2023
順位	127位	39位	44位	14位	15位	5位	1位	1位

文責：学術課

なごや共創研究基金創設

名古屋市立大学は、令和6年度からの第四期中期目標期間(6年間)を含めた中長期を展望し、世界をリードする魅力ある大学をめざすため、設立団体である名古屋市との連携のもと、「なごや共創研究基金」を創設し、大学の研究力の強化に重点的に取り組むことといたしました。

これにより本学は、研究大学としての飛躍はもちろんのこと、行政課題や地域課題の解決、地域の発展のために、名古屋市をはじめとする産学官での連携強化を推し進め、研究による知見を地域のまちづくりに還元し、ひいては国際社会に貢献してまいります。

「なごや共創研究基金」では、本学の自己資金の重点的な投資と当地域の行政課題に取り組むための名古屋市からの共同研究費(寄附講座)等を主な研究資金として、国際的な研究拠点の形成、多様な臨床研究の活性化、世界レベルの研究者の育成、地域社会へのさらなる貢献をめざすとともに、その研究成果としての知的財産で得た外部資金を次の研究へと再投資するなど、持続可能な研究サイクルを確立します。

本学をご支援いただける民間企業や市民の皆さまからの寄附金なども募りながら、まずは、今後10年程度を目途に研究資金100億円をめざします。

文責：財務課

新任教授紹介

東部医療センター 産科婦人科 中山 健太郎 教授

2023年9月1日付けで、名古屋市立大学医学部附属東部医療センター産婦人科教授を拝命した中山健太郎と申します。謹んでご挨拶申し上げます。

私は1996年に東京医科大学を卒業しました。家業の産婦人科医院を継ぐ目的で、大学卒業と同時に鳥根県に戻り、以降鳥根大学に約23年間在籍しました。ジョンスホプキンス大学留学を機に癌研究の楽しさに目覚め、帰国後の研究活動を通じて、指導する喜びや魅力を感じるようになり、大学での教職に医師人生を捧げたいと考えるようになりました。臨床面では、数多くの内視鏡手術やロボット手術の経験から、高難度手術への対応技術も身につけるに至りました。現職では、これまでの経験を活かしつつ、更なる研鑽を積み、微力ではございますが名古屋市の産婦人科医療に貢献出来たらと思います。これまで良性腫瘍手術のハイボリュームセンターとして機能してきた本センター産婦人科を、悪性腫瘍に対する先進かつ高水準な治療も提供する、包括的な婦人科腫瘍センターへと発展させたいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



中山 健太郎 教授

時の人

杉浦真弓教授がFIGO Women's Awards 2023を受賞しました

杉浦真弓教授がFIGO(The International Federation of Gynecology and Obstetrics、国際産婦人科連合)のFIGO Women's Awards 2023を受賞しました。

FIGO Women's Awardsは、産婦人科学と産科学の分野で国際的または国内的に科学の発展を促進するために特別な貢献をした女性医療専門家に送られる名誉ある賞です。この賞は、女性、母親、子供たちのためにより良い医療を提供するための非凡な仕事を行った女性へ送られます。

(杉浦教授のコメント)

国際産婦人科連合FIGO Women's Awards 2023をいただきました!不妊症研究の国際貢献と日本不妊症学会設立が受賞理由です。

1990年から研究を継続し、このような賞をいただいております。臨床、教育、研究と一緒に支えてくれた産科婦人科の同僚に心から感謝したいと思います。たくさんの患者さんが不妊症精査のために来院してくださって研究が成り立っています。今後ともご支援をお願い申し上げます。



文責：産科婦人科

時の人

医学部2年生森本理子さんが将棋女流棋士に

現在、医学部生と女流棋士という二足の草鞋を履いて頑張っている医学部2年生森本理子さん。将棋を始めたのは小学2年生の時、父親から教えてもらったことがきっかけでした。初めは何度対戦しても勝てず、父親に勝つことを目標に将棋を指しており、小学2年生の終わり頃から、棋力向上のためにふみもと将棋教室(藤井八冠出身の教室)に通い始めたそうです。医師を目指したのは小学4年生の時、入院した時の主治医の先生の治療とサポートの素晴らしさに感銘を受け、その後医療ドラマや漫画などを見て本格的に医師になりたいと思いました。受験勉強のため将棋から離れた期間もありましたが、無事に医学部入学を果たし、将棋を再開。ブランクもあり苦戦しましたが、2023年9月1日、女流棋士として見事デビューを果たしました。今後はメリハリを大切に将棋と勉強それぞれに集中し、頑張っていきたいと意気込んでいました。

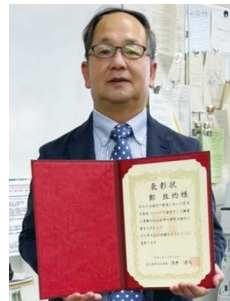
文責：医療人育成課



高インパクト論文表彰 / 神経生化学 鄭 且均 准教授

近年、腸内細菌とアルツハイマー病が密接に関連していることが明らかになっています。ヒトならびにアルツハイマー病モデルマウスを用いた研究では、腸内細菌の組成(腸内細菌叢)の変化が認知機能に影響することが報告されています。本研究では、ビフィズス菌MCC1274をアルツハイマー病モデルマウスに摂取させると、アルツハイマー病モデルマウスで見られる記憶障害が予防されることを明らかにしました。そのメカニズムとしては、ビフィズス菌MCC1274はAβ産生や沈着を低下させ、海馬でのミクログリアの活性化を抑制し、その結果炎症性サイトカイン産生を低下させることで記憶障害を予防することを見出しました。今後は、今回明らかにした予防効果の他に、アルツハイマー病発症後の治療効果について、さらに検討を進めたいと思っております。

文責：鄭 且均 准教授



高インパクト論文表彰 / 消化器外科学 森本 守 講師

この度は、高インパクト論文として表彰して頂き、心より感謝申し上げます。

本論文は、低侵襲解剖学的肝切除における適切なInflow control法について報告したものです。いわゆる解剖学的肝切除とは、責任門脈の血流領域を一括に切除するものを指します。その方法として、グリソンの一括処理、門脈や動脈を個別に処理する方法があります。本邦や海外の専門家と共同でシステマティックレビューを行い、適切なInflow control法についての結果を論文として報告いたしました。今後も、低侵襲解剖学的肝切除の安全な普及を目的とした研究、特に海外の専門家との共同研究を積極的に行い、新たな知見を名市大から発信していきたいと考えます。

文責：森本 守 講師



国際共著論文プラス1運動表彰 / 腎・泌尿器科学 岡田 淳志 准教授

この度、本学教育研究部学術課より、令和5年度国際共著論文プラス1運動表彰の栄誉を賜りました。対象となった論文は、私が筆頭著者を務めましたJAXA/NASAとの共著による宇宙飛行士の尿路結石予防に関する国際宇宙ステーション研究と、教室の先生がシンガポールの研究者と行ったAI搭載腎穿刺ロボット機器を用いた腎結石手術の無作為前向き介入研究など2つの国際共同研究についてのものです。

この栄誉を賜り、共同研究者、JAXA/NASAの関係の皆様、ご支援頂いたすべての方々に深く感謝申し上げます。私自身、宇宙医学に関してはまだ学ぶべきことが多く、今後も研究の発展と社会貢献のために精進して参ります。

文責：岡田 淳志 准教授



国際共著論文プラス1運動表彰 / 神経発達症遺伝学 鈴木 俊光 講師

2023年11月8日(水)に令和5年度国際共著論文プラス1運動表彰式が実施され、学内における国際共著論文数で特に顕著な業績を収めた研究者の1人として表彰して頂きました。私は、神経発達症(自閉スペクトラム症、知的障害、統合失調症など)やてんかんの発症に関わる責任遺伝子の探索や大規模ゲノム解析において疾患関連変異を高頻度に示すSCN2AやSTXBP1などの電位依存性ナトリウムチャンネルやシナプスタンパクをコードする遺伝子のマウスモデル解析を行うことで、疾患に関連する行動障害責任脳領域・神経回路の解明を目指して研究を進めています。今後も疾患の発症メカニズムの理解、治療法の開発・改良に貢献できるよう、研究をさらに深めて参ります。

文責：鈴木 俊光 講師



バルバドスの大臣が訪問しました

2023年11月8日(水)中米カリブ海にあるバルバドスから、カーク・ハンフリー国民強化・高齢者問題大臣一行が来学し、医学研究科を訪問しました。

医学研究科から高橋智研究科長が出席して挨拶を行った他、飛田秀樹教授が「発達障害に対する治療と教育」、赤津裕康教授が「日本の高齢化と名古屋市立大学の取組」について説明し、意見交換を行いました。来訪者からは両テーマに対して高い関心が示され、今後同国と本学の間での幅広い協力活動につながることを期待されます。

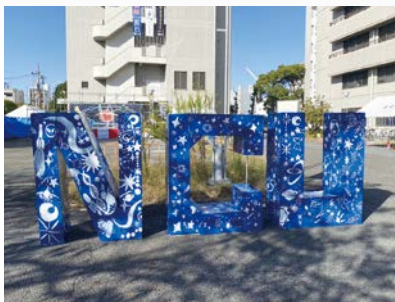


文責：国際推進課

川澄祭開催

第64回川澄祭実行委員長を務めました、医学部4年生の岡田幸太郎です。

今年は2023年10月27日から29日の3日間に川澄祭を行うことができました。今年度の川澄祭のテーマは「幸大夢遍」です。コロナの勢いも落ち着きをみせ、今までできなかったことができるようになり、我々実行委員だけでなく、ご来場者の方々の幸せや夢を広げてほしいという思いを込め、このテーマを作りました。このような状況の中でも、医学部、看護学部の大学祭として誇りを持ったものとするため、新型コロナウイルスの対策をマスクの着用、配布や飲食スペースの制限など万全なものにいたしました。



第64回川澄祭では、野外ステージの設置や模擬店の出店数など、平時に行われていた川澄祭と遜色ない規模に戻すことができました。看護棟を使用したお化け屋敷、脱出ゲームは、今年度から有料とさせていただきますが、子供からご年配の方まで多くの方々に体験していただくことができました。

1日目は前夜祭という形で学生のみで川澄祭がスタートしましたが、途中で不運にも雨に見舞われ、残りの企画を切り上げ、できる範囲をさくら講堂で続けることとなりました。突然のハプニングとなりましたが、我々実行委員の団結力、対応力が光るシーンとなったと思います。一般の方も来られる二日間の川澄祭では、大きな問題も発生せず、土日合わせて約5000人の方に足を運んでいただくことができました。

最後になりましたが、開催にあたり医学部同窓会の皆様や桜山キャンパスの教職員の方々に格別のご理解とご協力を賜りましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

文責：第64回川澄祭実行委員長 岡田 幸太郎

04 お知らせ Information

臨床工学技士20周年式典を開催しました/名市大病院

2004年10月1日に臨床工学技士(CE)が1名採用されてから、今年で20周年を迎えたことを記念し、2023年10月1日(日)に、『名古屋市立大学臨床工学技士20周年記念式典』を開催しました。

CEが人工心肺、人工透析、集中治療、デバイス関連、心臓カテーテル等診療支援業務拡大を行い、歩んできた20年を振り返り、医師の働き方改革に伴うタスクシェア/シフトに根差した麻酔補助業務や、先端的研究分野への未来プランを考えるとともに、愛知県臨床工学技士会の神戸幸司理事長を招いての特別講演を行いました。

5附属病院連携の起動力を生かし、臨床現場では、『すぐそばにCE』を合言葉に、いのちを支えるエンジニアと呼ばれているCEは、デジタル技術やロボットの進出する医療現場において、チーム医療の一員として、高度化複雑化している医療機器の安全性と有効性維持を担ってまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

文責：名市大病院 臨床工学室



世界糖尿病デーを開催しました/東部医療センター

世界糖尿病デーの11月14日、糖尿病について患者さんやご家族に正しく理解していただくため、「世界糖尿病デー in 名市大東部医療センター ～正しく知ろう!糖尿病～」を開催しました。

医師や看護師・管理栄養士など多職種のスタッフが、専門の知識を活かしたクイズや体験のブースを準備しました。なかでも理学療法士による体力チェックや臨床検査技師による動脈硬化度を判定する検査などが人気で、順番待ちになりました。患者さんなど多数の方が来場され、各ブースで、担当者に質問するなど糖尿病について楽しく学ぶ機会となっていました。

また、今年は名市大の医学部・薬学部・看護部の学生も企画段階から参加して、ゲームや糖尿病に関連したクイズで来場者を楽しませてくれました。

今後もこのような活動を通して、糖尿病についての理解を深める機会をつくっていきたいと考えています。

文責：東部医療センター 内分泌・糖尿病内科、栄養管理科



地域と共に災害に備える/西部医療センター

私が災害を担当して10年となりました。DMATメンバーと共に、毎年の訓練を企画・実施し、その振り返りを基にマニュアルを改訂、翌年の訓練で検証するというPDCAサイクルをフル回転させて災害対応を作ってきました。今、やっと当院の災害対応の骨組みが出来上がったと感じています。

発災直後に市民の皆さんを守ることができるかどうかは、医療に限らず、その地域の災害対応能力に大きくかかっています。当院は年1回、地域の医療機関対象にEMIS(広域災害救急医療情報システム)講習会を行い、今年度は、北区医師会・北消防と合同訓練を行いました。今後は、いっそう、地域の災害対応能力の向上を目指し、地域と共に災害に備えていきます。

文責：西部医療センター 災害医療センター長 病院長補佐 笹野 信子



AI内視鏡を用いた大腸内視鏡検査を行っています/みどり市民病院

みどり市民病院では2023年4月より、AIを用いた病変検出システム EndoBRAIN-EYE®(エンドブレイン アイ)を導入し、見逃しの少ない精度の高い大腸内視鏡検査を実施しています。このシステムは、内視鏡検査時の画像をAIが解析することにより、ポリープやがんなどの病変を検出するとリアルタイムに音と画像上の色で警告し、検出位置をboxで表示します。AIの精度は動画データから抽出した内視鏡画像をAIが学習(ディープラーニング)することで9割以上の検出精度と報告されています。AI内視鏡の導入により、病変の発見精度の上昇(見逃しの減少)や内視鏡医の負担軽減につながり、内視鏡の教育ツールとしても使用が可能です。当院では専門医がAI内視鏡を用いることにより、さらに詳細な検査、治療を行っております。

みどり市民病院消化器内科では、精度の高い検査を提供することで、疾患の早期発見・早期治療を行い、地域の皆様、患者さまの健康を維持できるよう努めて参ります。



文責：みどり市民病院 消化器内科 西江 裕忠、内藤 格

横断的診療を活かした摂食嚥下評価・リハビリプログラム/みらい光生病院

摂食嚥下は、生命維持に必要なだけでなく、食べる楽しみというQOLに関与するため、機能の低下予防や維持は健康長寿に重要です。みらい光生病院 感覚器機能ケアセンターでは、横断的診療が行えるセンター機能を生かして、外来通院で行う摂食嚥下評価・リハビリプログラムを作成し開始しております。プログラムでは、耳鼻いんこう科・歯科口腔外科・リハビリテーション科・言語聴覚士・理学療法士で多角的に嚥下機能と全身状態の評価を行い、多職種カンファレンスで検討後、ST・PT・歯科衛生士・管理栄養士による訓練や指導を行います。プログラム終了後には、嚥下評価表と訓練・指導内容報告書を作成し、かかりつけ医と連携して機能維持を支援しています。新しく嚥下圧測定装置も導入しましたので、より精密な評価を行い、地域の皆様の健康長寿に貢献していきたいと思っております。



文責：みらい光生病院 感覚器機能ケアセンター長 高橋 真理子

卒後臨床研修マッチングで2年連続フルマッチ達成

2024年度の卒後臨床研修マッチングで、名古屋市立大学病院は昨年に続き、フルマッチを達成しました。この成果は、当院の初期研修プログラムの魅力が広く認知された結果と考えられます。当院では、4つの研修プログラムを提供しています。これには、2年間の大学初期研修、連携病院とのたすきがけ研修、小児科・産科婦人科重点研修コースが含まれ、個々の希望に応じた研修が可能です。特に、たすきがけ研修では、一年目を連携

病院で行うことにより、一般的な疾患に関する経験を積み、二年目に本学に戻り、難治性疾患や希少疾患の学習を通じて、幅広い疾患や治療の経験を得られる点が評価されています。また、メンター制度を通じて研修の進捗状況の把握やメンタルサポートを行うなど、きめ細かいケアにも力を入れ、初期研修後も本学での継続的な専門研修を希望する研修医の数を増やせるよう努力して参ります。

文責：医療人育成課



広報誌：瑞 医(ずい)
発行：〒467-8602

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
TEL (052) 858-7114 FAX (052) 851-4801

URL <https://www.nagoya-cu.ac.jp/>

☒
我こそは
通信員!

広報誌「瑞医」へ最新的话题をお届けして下さるサポーター大募集!
「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。
我こそは、という方は、E-Mail: hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp
病院管理部経営課経営係 広報担当まで

※次号の発行は2024年5月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]